

四季の歌

心映の投句
俳句・短歌教室の詠歌紹介

落の臺句会

暑気見舞う明日の別れを胸に秘め 大井 良治
雨あがり湖面に逆さ雲の峰 落合 東太
水しぶき縫ふて鬼怒川棹さばき 木村 誠一
木漏れ日に光る荒礎苔の花 山本ひろし
身ハッ口風すり抜けて遠花火 宮崎富美子
畑の中追ふ児を負かす蓑 高津 澄子

互選

はな俳句会

幼児に無限の未来雲の峰 馬郡 京子
昼寝より覚めれば独り何もなし 藤本 鈴子
老いてなほ今もなつかし古団扇 日高八重子
汗拭ひ鍬手に取れば土硬き 山本ヨシ子
種飛ばし食べる西瓜に家族の輪 豊田 保
轟きも一段と増し雨後の滝 山田 花子

岩井竜童選

鬼杉赤池俳句教室

建部三由紀選

柔道の国技の誇り礼涼し 西田 真美
江戸文字の暖簾くぐりて鰻の日 二宮 正人
空蟬の命あるかの目玉かな 松岡 萬枝
一杯の五臓潤す岩清水 清原サヨ子
爽やかや五輪の感動ありがとう 岩井 童子
揚羽蝶空一枚の軽さかな 小野 美幸
足もとの暑さ戦後の記憶かな 加藤さみ子
共は逝き風鈴の音悲しげに 倉石嘉代子
虫刺されかいても消えぬかゆみかな 小五西田 芽生
水の郷童謡の里蜻蛉生る 選者 吟
方城句会 自選
藤井耿之介
婆ニヤン
想 史
檜 幽可

福智の風

▶初めての特集で、とても思い出深い一ヶ月となりました。編集が終わり「初心忘るべからず」という言葉が胸をよぎります。思いを形にする難しさを実感しましたが、この経験を大切に、次に向け精進していきます。(古田)

▶俳句の取材をして、魅力や奥深さに惹かれていく自分がいました。知っていく度に季語の難しさ、季語の意味をしっかりと知り17音で伝える俳句の難しさもわかり、素直に「芽生ちゃんすげえな」と感心しました。(世良)

▶生産者との連携強化と返礼品の見直しで過去最高額を突破した本町の「ふるさと納税」。全国から寄せられたエールを無駄にしないため、今後も一文字入魂の覚悟で価値ある紙面を作り続けようと心を新たにしました。(藤本)

DATE: Sep.2021
NO: 037



●上野焼の「原点」

古上野



福智町所蔵の古上野の展示会開催
秋の窯開きに合わせ、9月2日～10月31日までふくちのちで上野焼の展示会を開催します。今回の展示会は、釉薬(色)に着目してとりあげています。また、釉薬に関する本が並んだり、上野焼初心者でも分かる紹介動画を流したりしてありますのでぜひご覧ください。

PICKUP TOPICS

第38回全国児童生徒俳句大会で特選 約8千句から選ばれ初の快挙

四季の移ろいや自然の美しさに心を寄せ句に映す世界最短の定型詩・俳句。4世代にわたり俳句を嗜む最年少・西田芽生さんが全国で大きく輝きました。

↑句をしたためたノートは3冊目。約250句書かれています。その他に、愛用の歳時記と国語事典。



↑平成元年から続く鬼杉赤池俳句教室。西田さんを含む11人が参加し、感性を磨いています。←左手前から曾祖父・岩井竜童先生、西田芽生さん、祖母・建部三由紀さん、(左奥)母・西田真美さん、(右奥)大伯父・岩井童子さんの4世代で俳句をたしなむ俳句一家。*俳号

弁当の色あざやかに山笑う



入選句

猫に席取られて笑う 漱石忌



特選句



第38回全国児童生徒俳句大会 小学生の部 特選・入選

西田 芽生さん(市場小5年)

夏目漱石の代表作「吾輩は猫である」を連想させる句で、漱石と猫との仲の良さや二人だけの縁を感じさせるような句になっています。季語は「漱石忌」(冬の季語)

※漱石忌・夏目漱石の忌日。12月9日。

そばにはいつも俳句がある

市場小5年の西田芽生さん(当時4年)が、「第38回全国児童生徒俳句大会」で特選を受賞しました。大会は小・中・高の三部門で開催され、一人3句まで投稿可能。全国から7917句が寄せられ、芽生さんの句は小学生の部で特選22作の一つに選ばれ、もう一つの句でも特選に次ぐ入選250作の一つに選ばれ、自身初の快挙を成し遂げました。芽生さんが俳句を始めたのは姉の影響。4世代で俳句を嗜む俳句一家だったことから曾祖父が開く「鬼杉赤池俳句教室」に姉と一緒に小学1年生から通い始めました。これまでにしたためた俳句は約250句を超え、「幅広い年代の方と自分の感性を磨けていること、句に自分の主観を入れることが少しでも理解できていくことが結果につながった」と祖母の建部三由紀さんは語ります。多くの本を読んだり、知らない言葉はすぐ辞書を引いたり努力を惜しまない芽生さんは、「俳句教室内での特選、そしてまた大きな大会での特選を目指したい」と未来に向け筆を走らせました。

俳句の基本は「有季定型」で季語が非常に大事

基本ルールはたった2つ。「五・七・五」の定型に「季語」を入れることです。一見簡単そうに思えますが、俳句での季語は非常に重要で、単なる言葉として一句に入っていればよいというものではありません。季語が2つ以上句に入ってもいけません。季語を他の言葉に変えても通ずる句は弱いです。前か後の言葉に相乗し余韻が残る句こそ素晴らしい句になるのです。



鬼杉赤池俳句教室の「もちより句会」で力つける

月に2回行われる鬼杉赤池俳句教室は、開催日までに3～5句の俳句を詠み、開催日に参加者が句を持ち寄り、全員の句を一句ずつ紙に書き写していきます。小学生から90代まで幅広い年代の句を持ち寄ることで参加者は日々感性が磨かれ思考が高まっています。また、選者の建部三由紀さんが全ての句を見て俳句教室内で入選と特選を決め、競争心をもたせることで参加者のレベルアップにもつながっています。

